

## 「北釧コンビ」えさを求めて北上中

これからの季節、サバやマイワシなどの浮魚類は南の暖流域から餌の豊富な道東太平洋など北の海に来遊してきます。釧路水産試験場では、試験調査船北辰丸により道東沖の浮き魚類の来遊状況や資源状態を把握するため、1994年から流し網による漁獲調査を行っています。調査結果は「浮き魚ニュース」でお知らせしていますが、ここでは流し網調査の様子と、漁獲と水温の関係についておしらせします。

### 【調査内容】

調査は図1に示した海域で行いました。6月21日に釧路港を出港し襟裳岬南沖の St.1 地点から順に●の調査点で漁獲調査を実施しました。調査点に到着すると夕方 17:00 に網を海に入れ、翌朝 04:00 に網を揚げながら漁獲物の網はずしを行います。網にかかった魚は種類と尾数を記録し、その場で体長を測定します。この結果は一覧表に整理して直ちに FAX で水産試験場へ通報します。また、漁獲物の一部は、体長だけでなく体重や性別、成熟状態などを帰港後さらに詳しく調べるため、魚体に傷が付かないよう時にはハサミで網を切りながら慎重に網からはずし、冷凍して持ち帰ります。漁獲物が少ない時は、この揚網作業は数十分で終了しますが、大量の漁獲がある時や、網はずしに大変手間のかかるサメ類が多くかかると作業は2時間を超えることもあります。通常航海中の朝食は 06:00 ですが、作業が長引くと「朝飯前」とはいかず、司厨長は作業の進み具合を見ながら朝食の準備をすることになります。揚網作業が終われば、次の調査地点へ海洋観測（○の調査点）をしながら移動する、この繰り返しを8地点で実施しています。

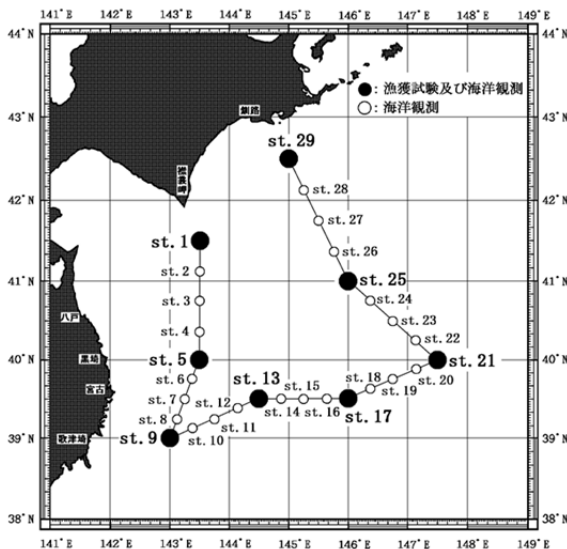


図1 調査地点図 ●は漁獲試験地点



図2 流し網の揚網作業の様子（魚はマイワシ）

### 【調査結果】

調査結果を表1に示します。地点ごとの採集尾数をみると、マサバは St.17 と 21 で 200 尾以上、St.25 と 29 で 100 尾を超え、ゴマサバは St.17 で 308 尾とマサバより多くなっており、その他の地点では数尾から数十尾となっていました。マイワシでは St.21 で約 9,000 尾と最も多く、St.17、

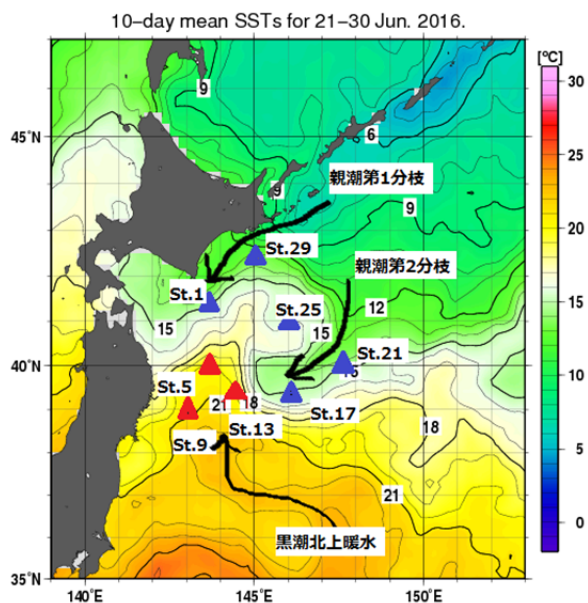
25、29でも1,000尾を超える漁獲がありました。一方で、St.5と9ではサバ・イワシともに漁獲がありませんでした。このように、地点によって漁獲の有無がはっきり分かれていました。次に表面水温をみると、St.5、9、13では19.6℃以上、その他の地点は16.5℃以下となっており、18℃くらいを境に前者を高水温海域、後者を低水温海域と分けることができます。高水温海域では、マイワシは漁獲がなく、マサバも漁獲があっても低水温海域の漁獲尾数より1~2桁少なくなっていました。逆に低水温海域ではマイワシ、マサバともに漁獲尾数が多いことから、一定の水温以下で漁獲可能という、水温と漁獲の対応がよく分かります。

表1 2016年マサバ・マイワシ漁期前調査 流し網漁獲試験結果(サバ・イワシ類)

位置	緯度	41-30N	40-00N	39-00N	40-00N	41-00N	40-00N	41-00N	42-30N	計
	経度	143-30E	143-30E	143-00E	144-30E	145-00E	147-30E	146-00E	145-00E	
流し網	投網	6/21	6/22	6/23	6/24	6/26	6/27	6/28	6/29	
	揚網	6/22	6/23	6/24	6/24	6/27	6/28	6/29	6/30	
水温	表面(℃)	15.1	19.8	21.1	19.6	13.9	16.0	16.5	15.5	
流し網 採集尾数	マサバ	37	0	0	5	211	210	120	188	771
	ゴマサバ	8	0	0	30	308	62	22	1	431
	マイワシ	210	0	0	0	1,309	8,930	2,173	1,481	14,103

6/24: 時化のため当日夜間に揚網

次に、より広い範囲の水温分布を見てみます。気象庁がインターネットで公表している旬平均海面水温図に調査地点を書き込んでみました(図2)。先に高水温海域としたSt.5、9、13を▲(赤色)で低水温海域を▲(青色)で示しました。道東太平洋では、釧路の南東沖41N、146E付近に黒潮起源の暖水塊があり、(中心部では15℃くらい)その北側に親潮第1分枝が道東沿岸に沿って襟裳岬付近まで張り出しており、暖水塊東部には親潮第2分枝が南下し、暖水塊南部を西へ回り込んでいます。今回の漁獲調査地点は、St.1、29が親潮第1分枝の東西に、St.17、21が第2分枝の東西にあり、St.25は暖水塊の中心部となっています。また、St.5、9、13は黒潮からの北上暖水の中となっていました。



これらの漁獲状況と水温分布から回遊状況を考えますと、サバ類、マイワシは暖かい太平洋の黒潮域から脱出し、餌を求めて親潮域へ順調に来遊していると考えられます。北の海でたっぷり餌を食べて、秋には脂の乗った「北釧鯖、北釧まいわし」となることを期待するところです。

全国の調査機関の結果をもとにした今後の漁況予報は、最新の「浮き魚ニュース」でお知らせしますので、そちらをごらんください。

(北海道立総合研究機構 釧路水産試験場  
調査研究部 中多章文)

図2 6月下旬の海面水温と漁獲調査点  
(気象庁ホームページ: 海の健康診断より引用)